

step up

2025 校内研修通信

3年生算数「小数の計算」の単元で「小数のひき算のひっ算」のチャレンジ授業です。本時のめあては、「小数のひっ算を進化させよう。」とし、児童がわくわくするめあてを設定されていました。前時までに、小数のたし算のひっ算は学習しています。

本時の課題①は、「 $3.5 - 2.3$ 」です。繰り下がりのない小数どうしの減法について、ひっ算での解き方を考えます。本時の学習は、グループで相談しながら、小数のひっ算の解き方を考えていきます。



前時で学習した小数のたし算のひっ算を想起し、

- ① 位をそろえて書く。
- ② 整数のひき算と同じように計算する。
- ③ 答えの小数点を打つ。とまとめます。

繰り下がりのないひっ算は、子どもたちも「かんたん！」と計算に自信をもって取り組みました。たし算のときのノートを振り返りながら、ひっ算の仕方と大事なことをノートにまとめます。全員でひっ算の仕方と答えを確認したあと、「次は、こんな計算はどうか。」と先生が、課題②を提示します。

次は、「①繰り下がりのある小数どうしの減法」「②整数-小数」「③差の一の位が0になる小数どうしの減法」の3問を考えます。

課題②では、難易度が上がり、「あれ？」という様子の子どもたち。困っている友だちに、「整数と同じように計算できるから・・・」と教える姿が見られました。



特に、問題②「整数-小数(5-2.3)」のひっ算は、ひっ算を書くときに、位を間違えやすい問題です。「5」を少数第一位の位に書いている子に、同じグループの子が、「5は、一のくらいやから・・・」と教えていました。



「5は、5.0」と考えられていなくて、少数第一位の計算に悩んでいる子に、「ここには、0があるから・・・」と説明していました。

3問ともできたグループには、先生が、「計算ができたなら、どうやって計算したか、計算の仕方を説明できるようにして。」と声をかけます。

機械的に計算ができるだけでなく、「どうしてそのように計算できるのか。」説明ができることが大切になります。

答え合わせをしながら、整数と小数が混ざった減法では、位をそろえることを意識することを押さえました。

本時では、小数の引き算をひっ算で計算する方法を、グループで話し合いながら進めていきました。グループの友だちに教えてもらうことで、解くことができるようになったり、友だちに教えることで、自分の理解を確かなものにしたりすることができていました。



授業者より

小数の引き算の筆算の学習を行いました。整数の筆算とは、少し違う答えの書き方や解き方に気づけるように班学習を取り入れました。班学習では、みんなと相談しながら答えにたどり着いたり、解き方を教えたりする姿が見られて班学習のメリットを実感することができました。ただ、班に1つホワイトボードなどを用意して、班全員で解き方や考え方をまとめられる工夫を行うと、もっと効果的な班学習ができたのではないかと感じました。